

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		

6 資料1

資料 1 日本人の平均寿命の変化

6 資料1 厚生労働省「平成30年簡易生命表の概況」2019年

6 資料1

資料 1 日本人の平均寿命の変化

6 資料1 厚生労働省「令和2年簡易生命表の概況」2021年

9 資料4

資料 4 1週間の運動日数

9 資料4 厚生労働省「平成29年国民健康・栄養調査」2018年

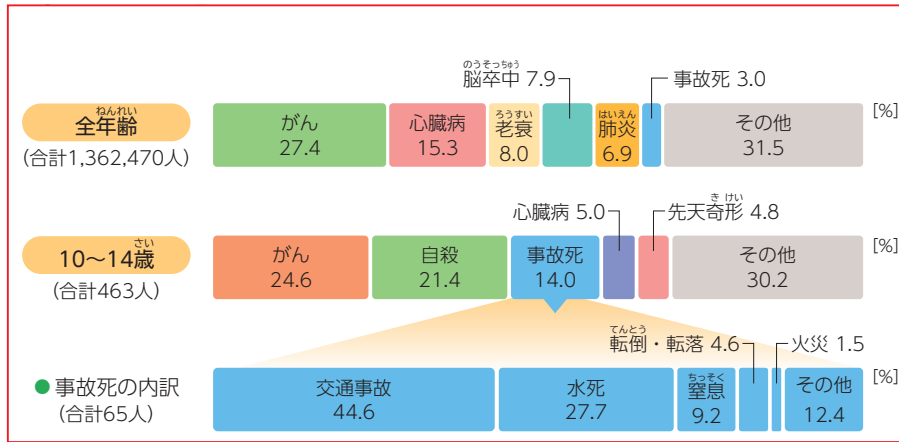
9 資料4

資料 4 1週間の運動日数

9 資料4 厚生労働省「令和元年国民健康・栄養調査」2020年

62 資料1

資料 1
死亡原因
(2018年)

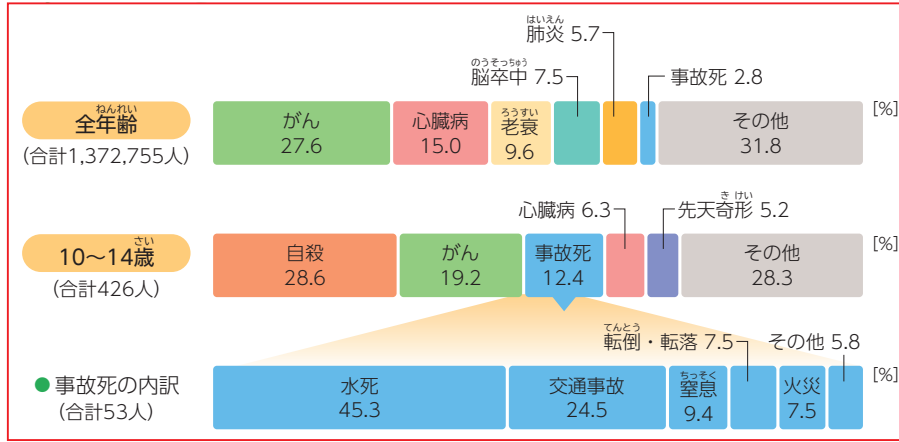


186 右上

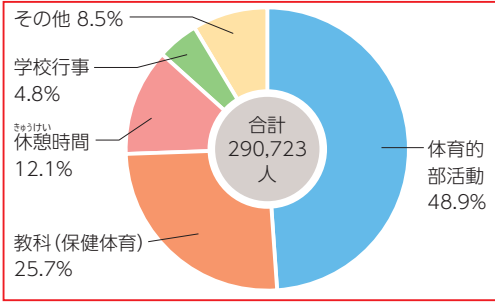
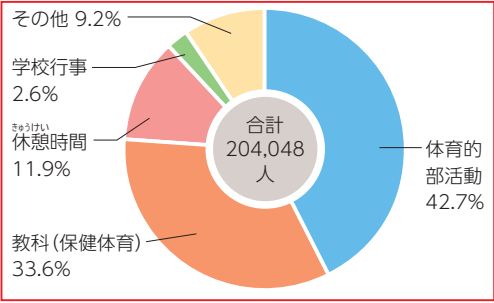
62	資料1	厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年
----	-----	-------------------------

資料 1

死亡原因
(2020年)

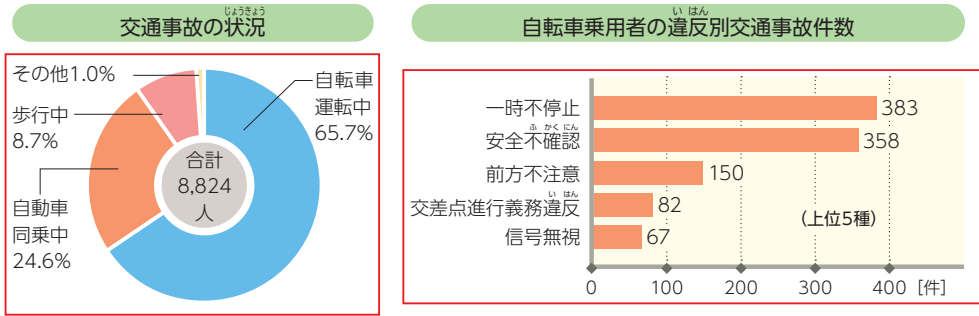


62 | 資料1 | 厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年

訂正箇所		原 文	訂 正 文						
ページ	行								
62	資料2	<p>資料 2 中学校でのけが(場合別) (2018年度災害共済給付分)</p>  <p>合計 290,723 人</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育的部活動 48.9% 教科(保健体育) 25.7% 休憩時間 12.1% 学校行事 4.8% その他 8.5% <p>🔗 P.84【ハインリッヒの法則】 【体育活動中の事故】</p>	<p>資料 2 中学校でのけが(場合別) (2020年度災害共済給付分)</p>  <p>合計 204,048 人</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育的部活動 42.7% 教科(保健体育) 33.6% 休憩時間 11.9% 学校行事 2.6% その他 9.2% <p>🔗 P.84【ハインリッヒの法則】 【体育活動中の事故】</p>						
186	右上	<table border="1" data-bbox="324 715 965 791"> <tr> <td>62</td> <td>資料2</td> <td>日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2019年</td> </tr> </table>	62	資料2	日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2019年	<table border="1" data-bbox="1117 715 1758 791"> <tr> <td>62</td> <td>資料2</td> <td>日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2021年</td> </tr> </table>	62	資料2	日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2021年
62	資料2	日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2019年							
62	資料2	日本スポーツ振興センター「学校の管理下の災害」 2021年							

64 資料1

資料 1 13~15歳の交通事故 (2018年)

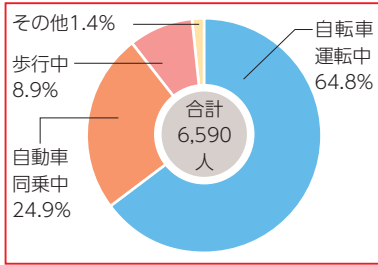


186 右上

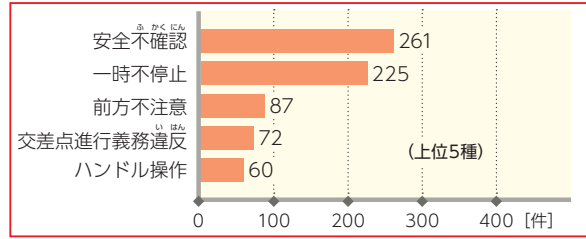
64 資料1 交通事故総合分析センター「交通統計」2019年

資料 1 13~15歳の交通事故 (2020年)

交通事故の状況



自転車乗用者の違反別交通事故件数



64	資料1	交通事故総合分析センター「交通統計 令和2年版」 2021年
----	-----	-----------------------------------

訂正箇所		原文	訂正文																								
ページ	行																										
79	左下	<p>119番通報で救急車が到着するまでの時間は、全国平均で<u>8.7分</u>だよ。 (2018年)</p> 	<p>119番通報で救急車が到着するまでの時間は、全国平均で<u>8.9分</u>だよ。 (2020年)</p> 																								
79	資料2	<p>資料 2 居合わせた人による心肺蘇生の実施の有無と1か月生存率などの関係(2018年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施せず</th> <th>心肺蘇生実施</th> <th>電気ショック実施(AED)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1か月後生存率(%)</td> <td><u>9.0</u></td> <td><u>17.5</u></td> <td><u>55.9</u></td> </tr> <tr> <td>1か月後社会復帰率(%)</td> <td><u>4.5</u></td> <td><u>12.5</u></td> <td><u>48.2</u></td> </tr> </tbody> </table>		実施せず	心肺蘇生実施	電気ショック実施(AED)	1か月後生存率(%)	<u>9.0</u>	<u>17.5</u>	<u>55.9</u>	1か月後社会復帰率(%)	<u>4.5</u>	<u>12.5</u>	<u>48.2</u>	<p>資料 2 居合わせた人による心肺蘇生の実施の有無と1か月生存率などの関係(2020年)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>実施せず</th> <th>心肺蘇生実施</th> <th>電気ショック実施(AED)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1か月後生存率(%)</td> <td><u>8.2</u></td> <td><u>15.2</u></td> <td><u>53.2</u></td> </tr> <tr> <td>1か月後社会復帰率(%)</td> <td><u>3.8</u></td> <td><u>10.2</u></td> <td><u>43.9</u></td> </tr> </tbody> </table>		実施せず	心肺蘇生実施	電気ショック実施(AED)	1か月後生存率(%)	<u>8.2</u>	<u>15.2</u>	<u>53.2</u>	1か月後社会復帰率(%)	<u>3.8</u>	<u>10.2</u>	<u>43.9</u>
	実施せず	心肺蘇生実施	電気ショック実施(AED)																								
1か月後生存率(%)	<u>9.0</u>	<u>17.5</u>	<u>55.9</u>																								
1か月後社会復帰率(%)	<u>4.5</u>	<u>12.5</u>	<u>48.2</u>																								
	実施せず	心肺蘇生実施	電気ショック実施(AED)																								
1か月後生存率(%)	<u>8.2</u>	<u>15.2</u>	<u>53.2</u>																								
1か月後社会復帰率(%)	<u>3.8</u>	<u>10.2</u>	<u>43.9</u>																								
186	右下	<table border="1"> <tr> <td>79</td> <td>資料2</td> <td>総務省「令和元年版 救急・救助の現況」</td> </tr> </table>	79	資料2	総務省「令和元年版 救急・救助の現況」	<table border="1"> <tr> <td>79</td> <td>資料2</td> <td>総務省「令和3年版 救急・救助の現況」</td> </tr> </table>	79	資料2	総務省「令和3年版 救急・救助の現況」																		
79	資料2	総務省「令和元年版 救急・救助の現況」																									
79	資料2	総務省「令和3年版 救急・救助の現況」																									

訂正箇所				原文
ページ	行			

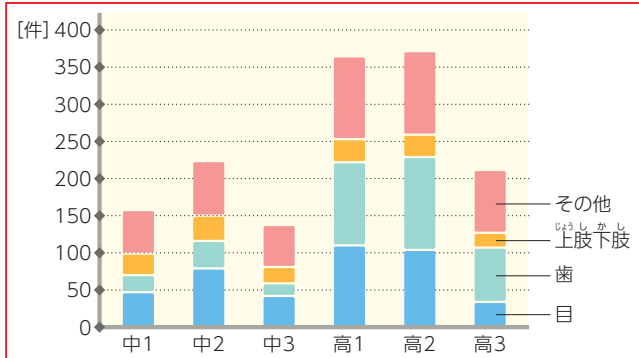
84

下

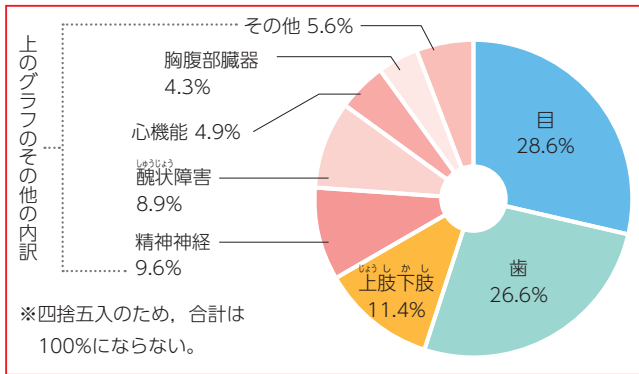
中学生、高校生の時期には、体育活動中(体育の授業、運動部活動、体育的行事など)の事故が多く発生しています。

※各グラフは、学校管理下で10年間(2008～2017年度)に発生した体育活動中の事故で、障害見舞金を給付したものの。

■ 1. 障害が残った事故の件数(学年別, 障害別)

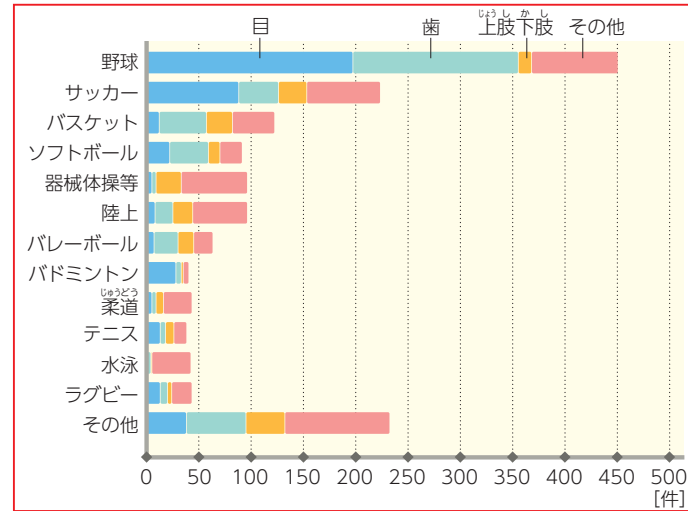


■ 2. 障害が残った部位(中学校1年生～高校3年生合計)



■ 3. 障害が残った事故の件数

(小学校1年生～高校3年生合計, 運動種目別, 障害別)



■ 4. 目、口や歯のけがを防止するための安全保護具の例



スポーツ用眼鏡



マウスガード

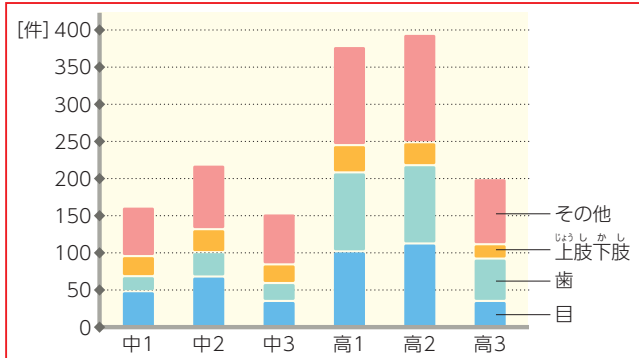


訂正箇所		訂正文
ページ	行	

中学生、高校生の時期には、体育活動中(体育の授業、運動部活動、体育的行事など)の事故が多く発生しています。

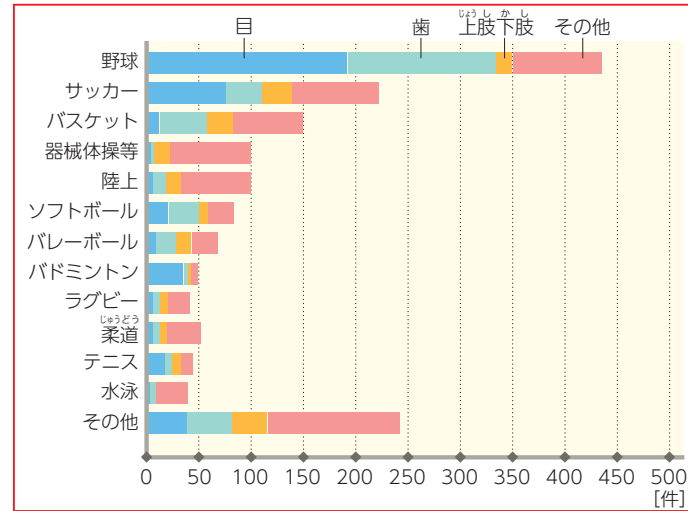
※各グラフは、学校管理下で10年間(2011～2020年度)に発生した体育活動中の事故で、障害見舞金を給付したものの。

■ 1. 障害が残った事故の件数(学年別, 障害別)

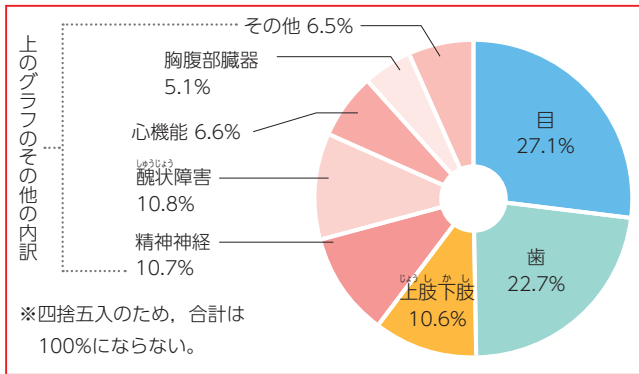


■ 3. 障害が残った事故の件数

(小学校1年生～高校3年生合計, 運動種目別, 障害別)



■ 2. 障害が残った部位(中学校1年生～高校3年生合計)



■ 4. 目、口や歯のけがを防止するための安全保護具の例



スポーツ用眼鏡



マウスガード

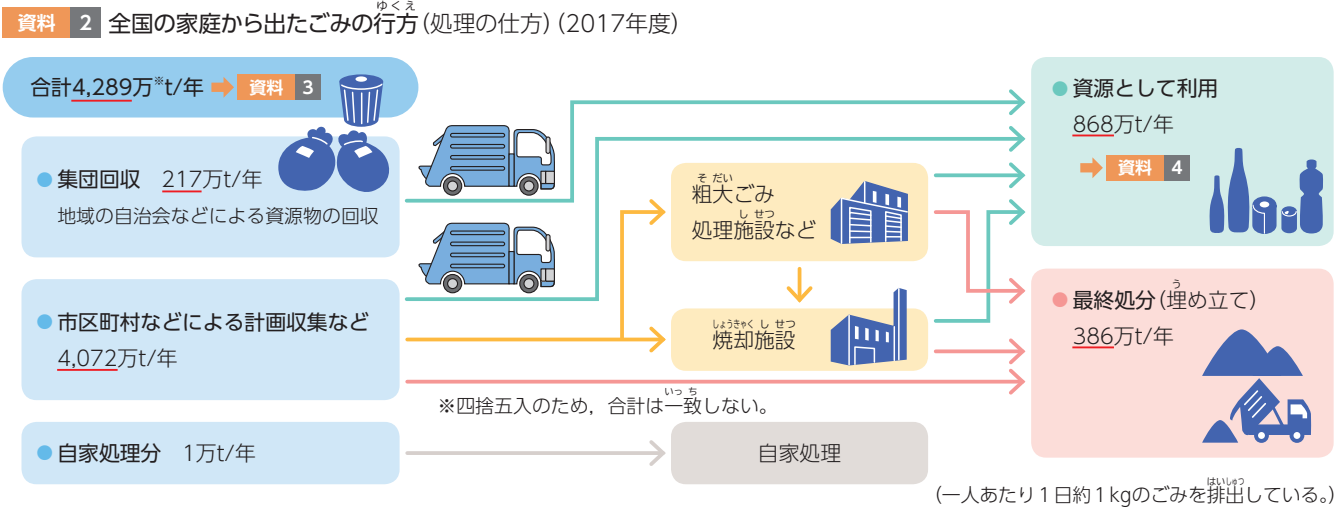


訂正箇所 ページ 行	原 文	訂 正 文																																
92 資料1	<p>資料 1 日本人の死亡原因の内訳 (2018年調査)</p> <table border="1"> <caption>資料 1 日本人の死亡原因の内訳 (2018年調査)</caption> <thead> <tr> <th>死亡原因</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん</td> <td>27.4%</td> </tr> <tr> <td>心臓病</td> <td>15.3%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>34.5%</td> </tr> <tr> <td>肺炎</td> <td>6.9%</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>7.9%</td> </tr> <tr> <td>老衰</td> <td>8.0%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,362,470人</td> </tr> </tbody> </table>	死亡原因	割合	がん	27.4%	心臓病	15.3%	その他	34.5%	肺炎	6.9%	脳卒中	7.9%	老衰	8.0%	合計	1,362,470人	<p>資料 1 日本人の死亡原因の内訳 (2020年調査)</p> <table border="1"> <caption>資料 1 日本人の死亡原因の内訳 (2020年調査)</caption> <thead> <tr> <th>死亡原因</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん</td> <td>27.6%</td> </tr> <tr> <td>心臓病</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>34.6%</td> </tr> <tr> <td>肺炎</td> <td>5.7%</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>7.5%</td> </tr> <tr> <td>老衰</td> <td>9.6%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,372,755人</td> </tr> </tbody> </table>	死亡原因	割合	がん	27.6%	心臓病	15.0%	その他	34.6%	肺炎	5.7%	脳卒中	7.5%	老衰	9.6%	合計	1,372,755人
死亡原因	割合																																	
がん	27.4%																																	
心臓病	15.3%																																	
その他	34.5%																																	
肺炎	6.9%																																	
脳卒中	7.9%																																	
老衰	8.0%																																	
合計	1,362,470人																																	
死亡原因	割合																																	
がん	27.6%																																	
心臓病	15.0%																																	
その他	34.6%																																	
肺炎	5.7%																																	
脳卒中	7.5%																																	
老衰	9.6%																																	
合計	1,372,755人																																	
186 右下	<table border="1"> <tr> <td>92</td> <td>資料1</td> <td>厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年</td> </tr> </table>	92	資料1	厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年	<table border="1"> <tr> <td>92</td> <td>資料1</td> <td>厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年</td> </tr> </table>	92	資料1	厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年																										
92	資料1	厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年																																
92	資料1	厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年																																
96 資料2	<p>資料 2 がんによる死亡のうちの主な部位別割合 (2018年)</p> <p>● 男性 ● 女性</p>	<p>資料 2 がんによる死亡のうちの主な部位別割合 (2020年)</p> <p>● 男性 ● 女性</p>																																
186 右下	<table border="1"> <tr> <td>96</td> <td>資料2</td> <td>厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年</td> </tr> </table>	96	資料2	厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年	<table border="1"> <tr> <td>96</td> <td>資料2</td> <td>厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年</td> </tr> </table>	96	資料2	厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年																										
96	資料2	厚生労働省「平成30年人口動態統計」2019年																																
96	資料2	厚生労働省「令和2年人口動態統計」2021年																																

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		
138	資料1	<p>資料 1 家庭から回収されたごみの種類と量の例</p> <p>その他:2,658t <small>ざつごみ</small> 雑紙:22,948t <small>びん かん</small> 瓶・缶:33,496t ペットボトル:29,262t 不燃ごみ:15,321t 枝,葉,草:20,410t 容器包装 プラスチック: 29,262t 可燃ごみ:247,997t <small>もたい</small> 粗大ごみ:10,882t [計382,974t]</p> <p>(北海道札幌市, <u>平成</u>29年度1年間の合計)</p>	<p>資料 1 家庭から回収されたごみの種類と量の例</p> <p>その他:1,678t <small>ざつごみ</small> 雑紙:21,494t <small>びん かん</small> 瓶・缶:35,647t ペットボトル:31,248t 不燃ごみ:15,424t 枝,葉,草:21,233t 容器包装 プラスチック: 31,248t 可燃ごみ:257,899t <small>もたい</small> 粗大ごみ:12,763t [計397,386t]</p> <p>(北海道札幌市, <u>令和</u>2年度1年間の合計)</p>

訂正箇所		原文
ページ	行	

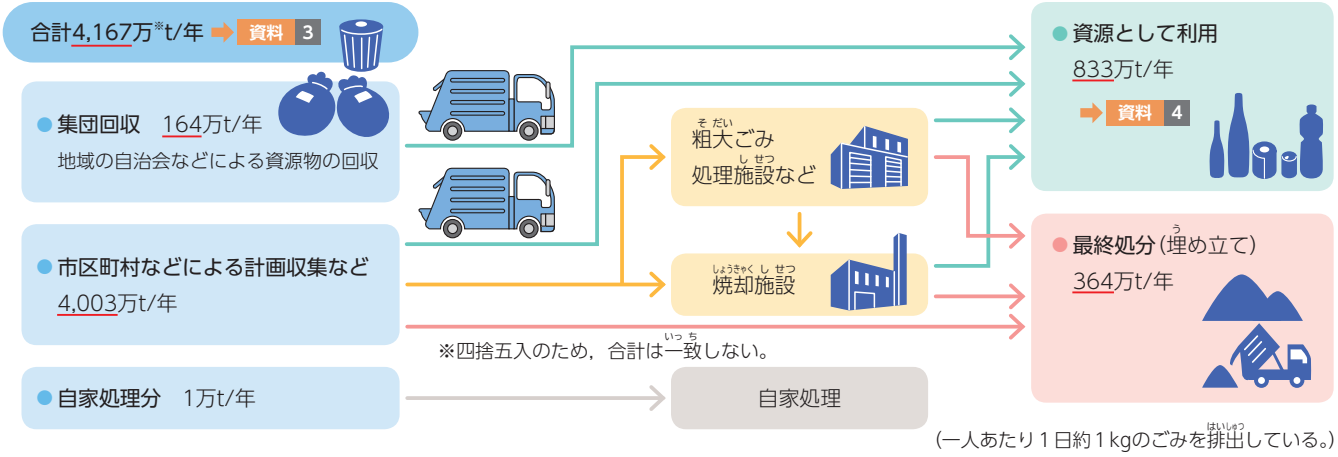
139 資料2



187 右上

139	資料 2, 3, 4	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成29年度)」 2019年
-----	---------------	-------------------------------------

資料 2 全国の家から出たごみの行方(処理の仕方)(2020年度)

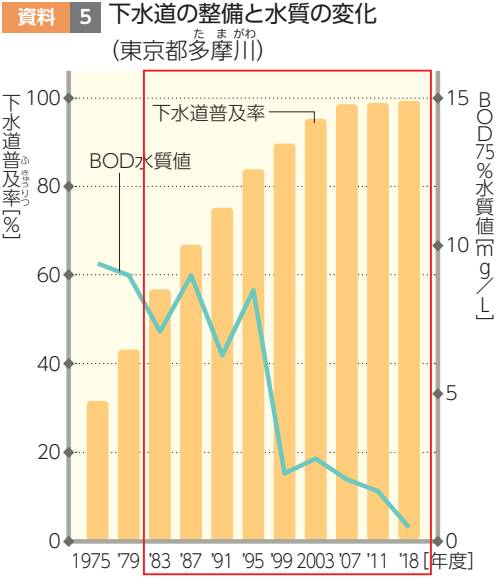


139	資料 2, 3, 4	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(令和2年度)」 2022年
-----	---------------	------------------------------------

訂正箇所		原文		訂正文	
ページ	行				
139	資料3	<p>資料 3 <small>そうはいしゅつりょう</small> ごみの総排出量の推移</p>		<p>資料 3 <small>そうはいしゅつりょう</small> ごみの総排出量の推移</p>	
187	右上	139	資料 2, 3, 4 環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成29年度)」 2019年	139	資料 2, 3, 4 環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(令和2年度)」 2022年
139	資料4	<p>資料 4 資源化されたごみの総量とリサイクル率</p>		<p>資料 4 資源化されたごみの総量とリサイクル率</p>	
187	右上	139	資料 2, 3, 4 環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成29年度)」 2019年	139	資料 2, 3, 4 環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(令和2年度)」 2022年

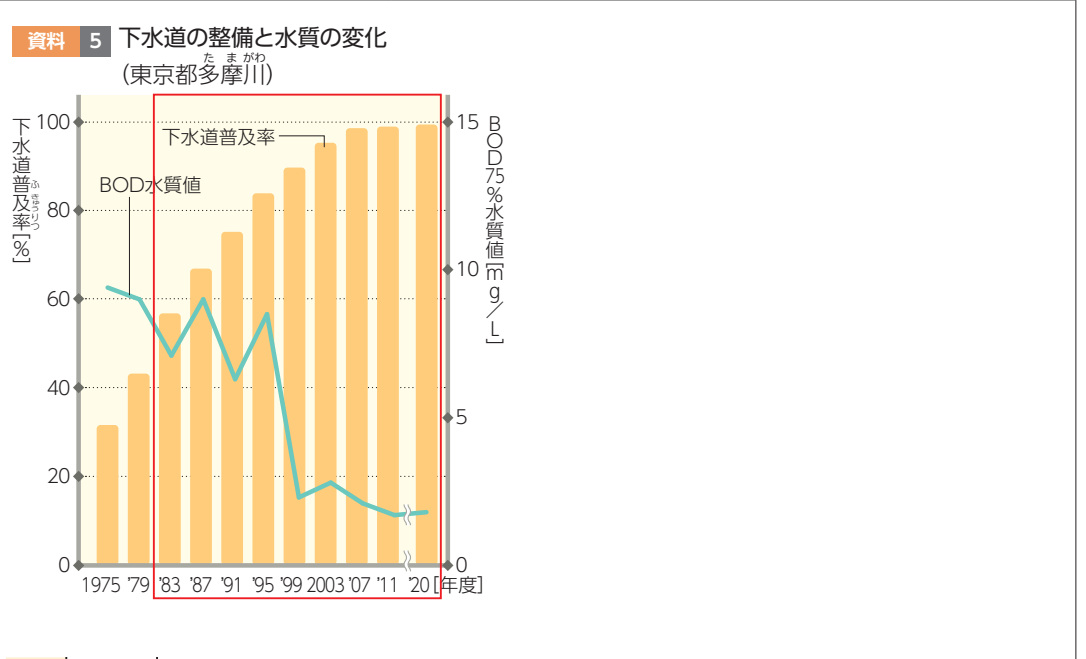
訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		

140 資料5



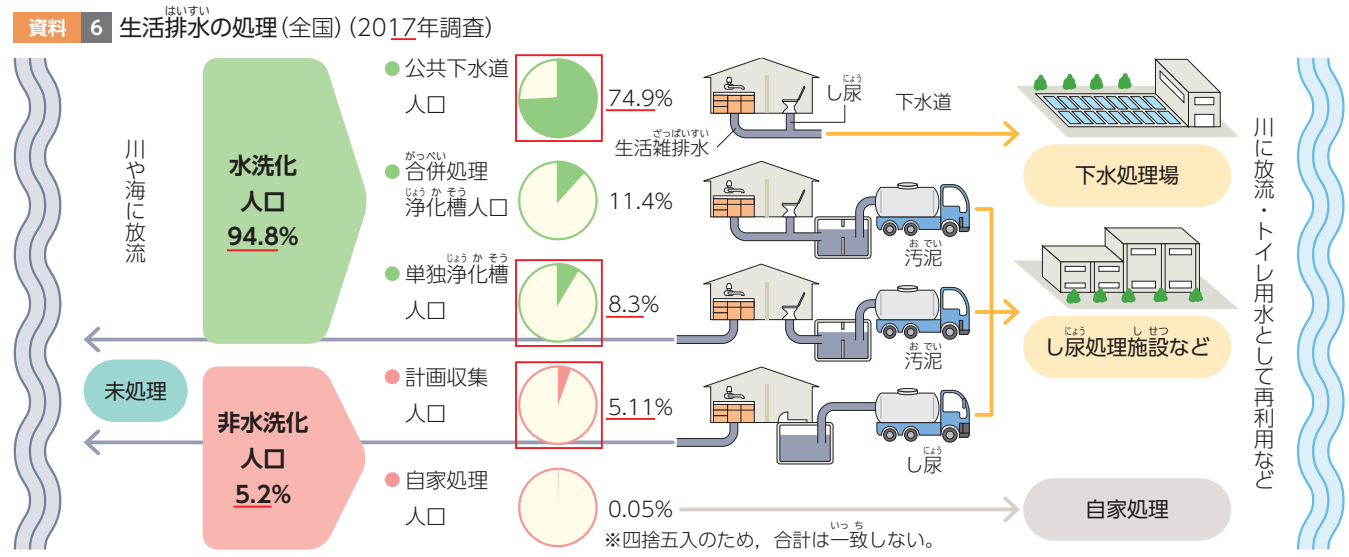
187 右上

140	資料5	東京都下水道局「東京都の下水道2019」
-----	-----	----------------------



140	資料5	東京都下水道局「東京都の下水道2021」
-----	-----	----------------------

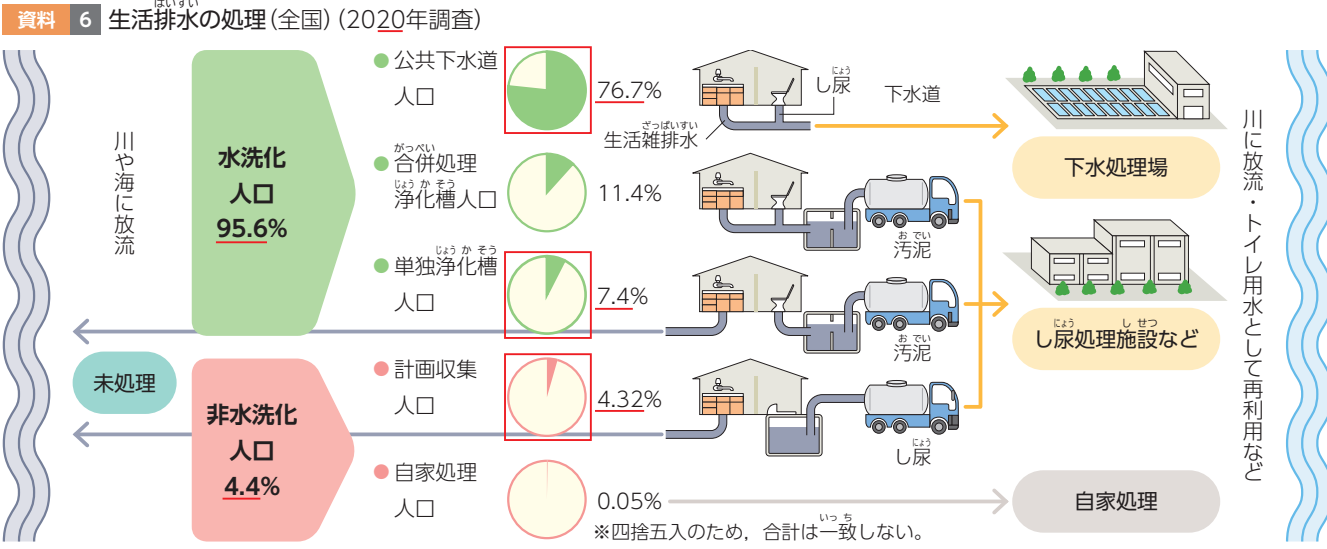
140 資料6



187 右上

140	資料6	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(平成29年度)」 2019年
-----	-----	-------------------------------------

訂正箇所		訂正文
ページ	行	



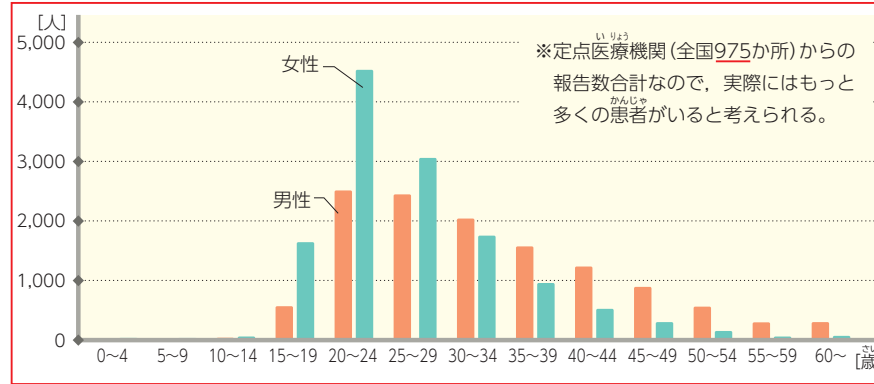
140	資料6	環境省「一般廃棄物処理事業実態調査(令和2年度)」 2022年
-----	-----	------------------------------------

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		
144	右上	<p>■ 1. 世界の年平均気温の平年差の変化 (気象庁資料)</p> <p>※1981～2010年の30年間の平均値を平年値とし、平年値との差を平年差としている。</p>	<p>■ 1. 世界の年平均気温の平年差の変化 (気象庁資料)</p> <p>※1991～2020年の30年間の平均値を平年値とし、平年値との差を平年差としている。</p>

資料 3 性感染症報告数(2017年調査)

感染症	報告数(人)	
	男性	女性
性器クラミジア 感染症	<u>12,072</u>	<u>12,753</u>
淋菌感染症	<u>6,459</u>	<u>1,648</u>
性器ヘルペス ウイルス感染症	<u>3,694</u>	<u>5,614</u>

● 性器クラミジア感染症報告数(年齢層別)



訂正箇所

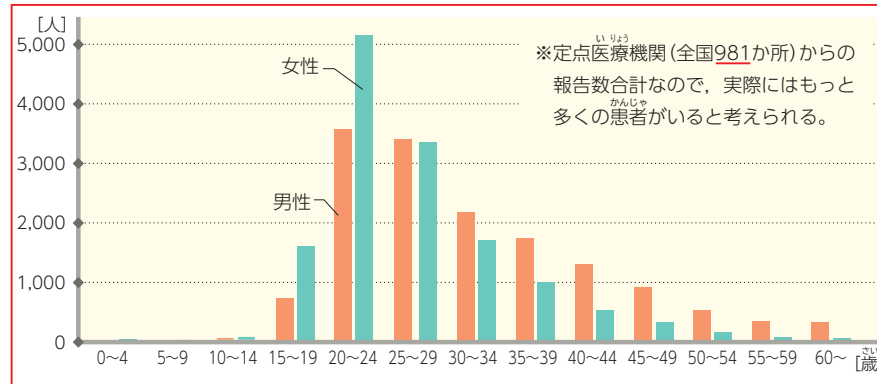
ページ 行

訂 正 文

資料 3 性感染症報告数(2020年調査)

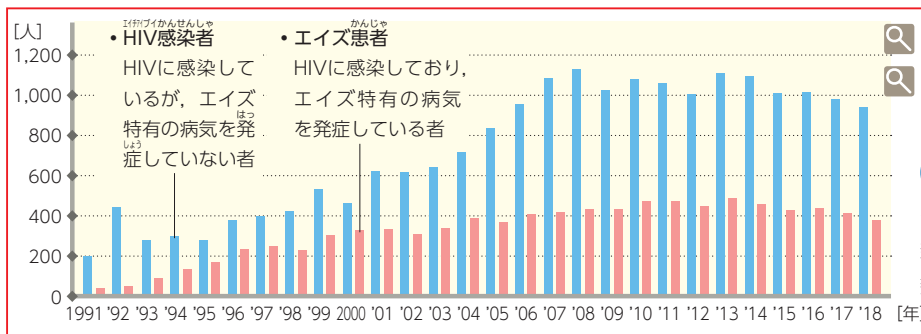
感染症	報告数(人)	
	男性	女性
性器クラミジア 感染症	<u>14,712</u>	<u>13,669</u>
淋菌感染症	<u>6,718</u>	<u>1,756</u>
性器ヘルペス ウイルス感染症	<u>3,324</u>	<u>5,676</u>

● 性器クラミジア感染症報告数(年齢層別)



155 資料4

資料 4
HIV感染者・エイズ患者の新規報告数
(日本国内)
※血液製剤による感染例を除く。
※累計人数ではない。

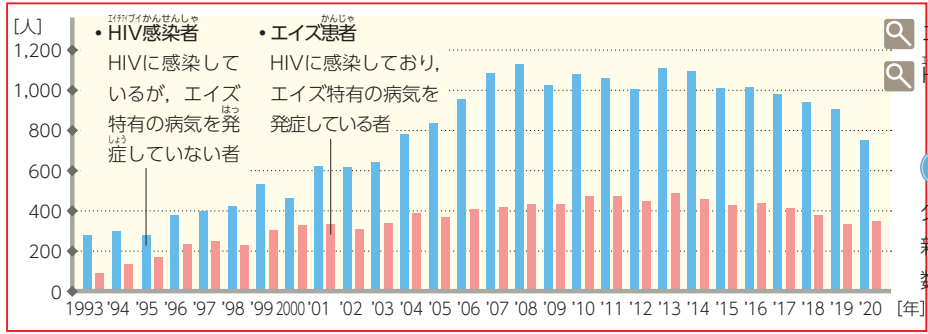


187 右下

155	資料4	厚生労働省「平成30年エイズ発生動向年報」2019年を基に作成
-----	-----	---------------------------------

資料 4
HIV感染者・エイズ患者の新規報告数
(日本国内)

※血液製剤による感染例を除く。
※累計人数ではない。



155	資料4	厚生労働省「令和2年エイズ発生動向年報」2021年を基に作成
-----	-----	--------------------------------

訂正箇所		原文	
ページ	行		
155	下	 <p>世界と日本のHIV／エイズ状況</p> <p>読み物 世界のHIV感染者数は3,690万人ほど(2017年推計)といわれています。2017年にエイズ関連の疾病で命を落とした人の数は94万人ほどで、2005年の190万人と比べると半数以下に減少しています。その最も大きな要因は、HIV治療薬である抗レトロウイルス薬の世界的な普及拡大です。この薬は、従来の薬剤よりも体内のHIVの量を早く抑え、副作用</p>	<p>が少なくコスト面でも優れ、多くの人々に治療とその維持を可能にしました。</p> <p>新規のHIV感染者数の報告が世界的に減少傾向にある一方、資料4にあるように、依然として日本国内の新規報告数は横ばいの状況が続いています。予防対策はもちろん、早期の発見・治療が大切です。</p>

訂正箇所	訂 正 文	
ページ	行	
		<div data-bbox="342 228 434 300" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="439 220 840 268" data-label="Section-Header"> <h3>世界と日本のHIV／エイズ状況</h3> </div> <div data-bbox="342 288 981 523" data-label="Text"> <p>読み物 世界のHIV感染者数は3,770万人ほど(2020年推計)といわれています。2020年にエイズ関連の疾病で命を落とした人の数は68万人ほどで、2005年の190万人と比べると大きく減少しています。その最も大きな要因は、HIV治療薬である抗レトロウイルス薬の世界的な普及拡大です。この薬は、従来の薬剤よりも体内のHIVの量を早く抑え、副作用が少</p> </div> <div data-bbox="987 284 1630 363" data-label="Text"> <p>なくコスト面でも優れ、多くの人々に治療とその維持を可能にしました。</p> </div> <div data-bbox="987 363 1630 523" data-label="Text"> <p>資料4にあるように、日本国内のHIV感染者新規報告数は長い間増加傾向から横ばいの状況が続いていましたが、最近では、他の先進国と同じように減少傾向にあります。予防対策はもちろん、早期の発見・治療が大切です。</p> </div>

訂正箇所		原文	訂正文
ページ	行		
159	資料2	<p>資料 2</p> <p>救急車による搬送人数の状況 (全国、疾病やけがの程度別) (2018年調査)</p> <p>軽症……入院の必要無し 中等症……重症と軽症の間 重症……3週間以上の入院が必要</p>	<p>資料 2</p> <p>救急車による搬送人数の状況 (全国、疾病やけがの程度別) (2020年調査)</p> <p>※四捨五入のため、 合計は100%にならない。</p> <p>軽症……入院の必要無し 中等症……重症と軽症の間 重症……3週間以上の入院が必要</p>
187	右下	<p>159 資料2 総務省「令和元年版 救急・救助の現況」</p>	<p>159 資料2 総務省「令和3年版 救急・救助の現況」</p>
176	下	<p>2016年・リオデジャネイロ 2021年・東京 2024年・パリ 2028年・ロサンゼルス</p>	<p>2016年・リオデジャネイロ 2021年・東京 2024年・パリ 2028年・ロサンゼルス</p>
177	下	<p>2016年・リオデジャネイロ 2021年・東京 2024年・パリ 2028年・ロサンゼルス</p>	<p>2016年・リオデジャネイロ 2021年・東京 2024年・パリ 2028年・ロサンゼルス</p>
186	左上	<p>9 資料6 厚生労働省「健康づくりのための身体活動指針2013」を基に作成</p>	<p>9 資料6 厚生労働省「健康づくりのための身体活動基準2013」を基に作成</p>
186	左下	<p>25 資料3 日本性教育協会「青少年の性行動」2018年を基に作成</p>	<p>25 資料4 日本性教育協会「青少年の性行動」2018年を基に作成</p>